

みつける・つながる・ひろがる！ 蒲郡の生涯学習市民ワークショップ

第3回レポート

令和8年9月27日（日）、蒲郡市民体育センターで蒲郡市の生涯学習を考える3回目の市民ワークショップを開催し、20代から80代までの市民8人が参加しました。

最終回のワークショップは「がまごおりの生涯学習の『みらい』を考えよう」がテーマ。生涯学習を通じて、10年後の蒲郡がどんなまちになっていたらワクワクするか、未来の姿を描いた上で、その未来を実現するために①行政、②地域・企業・団体、③市民がそれぞれ何をすべきかについて、考え合いました。

がまごおりの生涯学習の「みらい」を考えよう

A グループでは、市民が自分の興味を深く追求し、世代や家族の枠を超えて人と人、あるいは場所と繋がる未来を望む意見が出されました。蒲郡が持つ海や山などの自然といった「当たり前にある素敵な魅力」を市民自身が気づき、他所から人が住みたくなる町にしたいとの声が聞かれました。

その実現に向け、行政にはイベントの開催やSNSや多言語対応を駆使した「住むこと」の魅力発信や多様な主体が気兼ねなく意見交換ができる窓口・機会を求めています。

地域や企業・団体には、地元の名産品作りへの参画や小学生から大学生を広く巻き込んだイベント・商品開発など、市民が関わるきっかけ作り

を期待しています。

市民は、選挙への参加などを通じて町の未来に関心を持ち、ボランティア活動などを通じて主体的に参加していくべきだという、当事者意識を持つことが大事との意見が出されました。



生涯学習を通じて、10年後の蒲郡がどんなまちになっていたらワクワクする？	その未来を実現するために、①行政、②地域・企業・団体、③市民がすべきことは？	
・誰もが住みたくなる魅力的な町 ・誰もが気軽に使える魅力的な公共施設 ・蒲郡の自然や良さが共有されている ・若者や子供が生き生きと暮らす ・世代を超えて一緒に取り組める ・家族や子どもと挑戦し共感し合う ・知りたい事を教えてくれる人・場所 ・自分が学びたい事に打ち込める ・AIに負けない相談できる人がいる	①行政	・魅力が伝わるイベントの開催 ・SNS等での多言語・継続発信 ・市と企業等を繋ぐ窓口の設立
	②地域・企業・団体	・名産品作り等の体験会実施 ・学生を巻き込んだイベント・商品開発 ・市民の参画ときっかけ作り
	③市民	・市のイベントを自ら知る ・ボランティア活動に携わる ・選挙に行き大切さを伝える

B グループでは、若者や子育て世代など、活き活きと輝き、人と人の繋がりが「ワクワクの輪」として広がるまちの未来が描かれました。音楽や踊りを楽しみ、誰もがいつでも無料で自由に使える広場のような場があるとの理想が語られたほか、「生涯学習」という言葉自体をより楽しさが伝わる表現に変えたいという前向きな提案もありました。

未来への行動として、行政には課同士の連携や戦略的なメディア発信、生涯学習の予算の確保を求めています。

地域や企業・団体に対しては、伝統行事や祭りを通じて若い世代を巻き込むことや、生涯学習を支えるための寄付・協力を呼びかけ、若者が関わ



れるようオープンな自治会運営を望んでいます。

市民は、内にこもらず、健康第一で楽しく暮らしながら、魅力的な人材が周囲を誘い合い、何事にも主体的に挑戦して理想を実現していくべきだという活発な意見が出されました。

生涯学習を通じて、10年後の蒲郡がどんなまちになっていたらワクワクする？	その未来を実現するために、①行政、②地域・企業・団体、③市民がすべきことは？	
・人と人が繋がりワクワクの輪に ・音楽や踊りが溢れる楽しいまち ・自然が残り、発展したまちに ・若者が活やくする町 ・住民も訪れる人も豊かになる ・自らの好きな事で人と繋がる ・多様な主体と一緒に蒲郡のことを考えている ・誰もが無料で自由に使える広場 ・生涯学習を楽しい言葉に変える	①行政	・行政の課同士が横断的に連携 ・生涯学習の価値をPRして予算獲得 ・先進地を視察し戦略的に情報発信
	②地域・企業・団体	・祭りを通じた若い世代の育成 ・企業による生涯学習への寄付 ・様々な組織間連携、開かれた町内会
	③市民	・健康に暮らして学び、輝く ・主体的に何でも挑戦してみる ・市民等をつなげる人材の育成

グループワーク後、グループごとに議論の内容を発表して両グループで議論内容を共有した上で、良いと思う意見にシールを貼ってもらうなど、参加者全体で議論を深めました。

ワークショップ参加者からは、思いや考えを共有し合い、議論できて楽しかったとの感想が

多く寄せられました。

3回のワークショップを通じて、様々な意見が出されました。参加者の皆さんの意見、そこに込められた思いをくみ取り、よりよい計画となるよう、活かしていきます。

